

職員による自己評価

A環境面

棚の整理の仕方など工夫し、限られた空間を上手に使っている。

B児童への支援内容

月ごとの製作を行っている。
 コロナ禍で外出・外食行事は行えていない。
 特性に合わせたプログラムを考えている。

C関係機関との連携

基幹センターや区役所のワーカーと連絡を密にしている。

D保護者への説明責任・信頼関係

面談を半年に一度行っている。
 何かあればすぐ保護者に連絡している。
 コロナ禍で保護者会が開催できていない。

E非常対応

保護者の携帯に連絡。

保護者による評価

A環境面

バリアフリー化には限界があると理解している。

B児童への支援内容

高評価

C事業所からの情報発信

コロナ禍で保護者会がない。

D非常対応

問題なし。

事業所内での分析

【共通点】

コロナ禍で保護者会が開催できていない。

【相違点】

スタッフの専門性に関すること。
 あえて、スタッフの資格や経歴は公表していない。(スタッフの個人情報保護のため)

分析・検討してみて…

事業所の強み

- ・生活スキルを身に着けるための取り組みを行える環境は整っている。
- ・駅や商業施設が近く、生活体験の場があることが強みである。(コロナが落ち着いたら、また外出・外食行事も行えると思う)
- ・文庫第2と併用利用することで、学習面に対しても力を入れることができている。

事業所の改善点

- ・スタッフの支援員としてのスキルアップ。
- ・その為の施設内研修や外部研修への参加。
- ・近隣住民に配慮し、騒音等気をつけていく。

事業所の改善への取り組み

- ・A1、A2の利用者への対応がまだ確立されていない。
- ・保護者のニーズにあった支援を今後もできるだけ提供していきたい。(学習、生活スキルアップ、コミュニケーション能力など)

～自己評価を行っての事業所としての感想など～

- ・保護者からほぼ高評価をいただいた。コロナ禍により、今まで取り組んできたことができない歯がゆさもあるが、今後も今回同様の評価をいただけるようにスタッフ一同取り組んでいきたい。